

I 行いによる救いではなく、主を信じる信仰による救いの恵みへの疑問

「それでは、どのように言うべきでしょうか。恵み（主の十字架による罪の赦し）が増し加わるために、わたしたちは罪の中にとどまるべきでしょうか」：1。行いによる義認、救いではなく、主を信じる信仰による義認、救いという真理は、誤解され、乱用される（恵みを放縱に変える）可能性が、いつの時代にもある。「どうせ恵みによる赦しがあるなら、罪にとどまっても良いのではないか」と。ユダの手紙には「ある者たちが忍び込んできたからです。彼らは不敬虔な者たちで、私たちの神の恵みを放縱に変え、唯一の支配者（神の支配＝神の国を私たちの心に誕生させる方）である私たちの主であるイエス・キリストを否定しているので、以下のようなさばきにあう」：4。救いの真理は、聖書の一箇所ではなく、聖書全体から正しく解釈できるように神は、66巻の聖書を私たちに与えられている。主の十字架の目的を記した次のみことばは、明確な答えを与える→「キリストは自ら、十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた（私たちの罪を負い私たちの身代わりに神の聖なる刑罰を十字架で受けて死に、私たちの贖い、償い、完全な赦しを完了された）」Iペテロ2：24。これに続くみことばがある→「それは（主が十字架で私たちの罪を完全に償い赦しを完了させられたのは）、私たちが罪から離れ、義（主御自身、神のみこころ、神の前に正しいこと、神に受け入れられ喜ばれること）のために生きるため。」：24。主が私たちの罪のために十字架で死に罪の償い、罪の赦しを完了させられた恵みの目的は、私たちが、そのまま罪にとどまるためではなく、新しい人として主の恵みへの感謝と御聖霊の力に頼って、罪から離れ、義、主のために感謝しつつ生きるためなのである。

II 「決してそんなことはありません。罪に対して死んだ（不定過去時制。一度限り起こって完結した出来事）私たちが、どうしてなおも罪のうちに生きていられるでしょうか」：2。「罪に対して死んだ（不定過去時制、一度限り起こって完結した出来事）私たち」とは、罪に徐々に死に聖められるという意味ではありません。原語の時制で不定過去時制が使われているのは深い意味があります。私たちは、主を信じた時に、主と霊的に結合されて、主と共に十字架で罪に対して死んだという意味です。これは御聖霊の助け無しに私たちの頭では理解できません。その理解を助けるのがコロサイ2：20「あなたがたがキリストとともに死んで、この世のもろもろの霊から離れた（聖書では死とは「離れる」を意味する）」です。主を信じ主と霊的に結合し、主とともに死んだ私たちは、罪に対して死に、今は、罪のうちではなく、幸いなことにキリストのうちに生かされているのです。このローマ6：1-11を良く理解する鍵は、キリストを信じると罪の赦しと与えられると同時に、「キリストと霊的に結合する驚くべき恵み」が与えられるという真理です。その深い真理を3-4節で説き明かされます。※主との霊的な結合の恵みは、主を信じる人の心の罪がなくなり、この世で罪との戦いがなくなるという意味ではないことも聖書全体の教えです。

III 「それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたではありませんか」：3。私たちは、バプテスマ、洗礼という儀式で人が救われるのではないことを聖書から教えられている。バプテスマ、洗礼という主が命じられた聖なる儀式の意味は、「人が主を信じる時、御聖霊が心に宿られ＝聖霊のバプテスマにより霊的に主を信じる人は主と霊的に結合し、主とともに死に、主とともに葬られ、主とともによみがえり、新しいいのちを受けている。その霊的な恵みの事実を公の儀式で表わす（体全体を水に浸す＝主と共に死に、葬られたことを表わす。水から上げられることは、主とともによみがえる恵みを表わす）」ということである。ですから、この6：3、4の「バプテスマ」は、儀式としての洗礼ではなく、聖霊

のバプテスマを意味している。その根拠のみことばは→「私たちはみな、ユダヤ人もギリシャ人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によってバプテスマを受けて、一つのからだとなりました（霊的にキリストと結合し、キリストの一つのからだなる教会）。そして、みな一つの御霊を飲んだのです」（Ⅰコリント12：13）。感謝すべき事に、私たちを救うのは、神が御霊を通して行われる、この途方もないみわざである。御霊は私たちをアダムの中から取り上げ、キリストに組み込み、つぎ合わされ、キリストにつく聖霊のバプテスマを受けさせて下さる。この先行する恵みがあるからこそ私たちは救われるのであり、それは主を信じる私たち全員に与えられる恵み。

Ⅳ「私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマ（御霊の内住によるキリストとの霊的な結合のバプテスマ）によって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに進むためです」：4。

御霊なる神により主を信じる者は、御霊による新生、新しいいのちが与えられる。主を信じる私たちの心には、この地上にいる間は、罪の性質が残っており、罪との戦いは生涯続くと聖書は教えている。しかし、主を信じる私たちには、主の内住、聖霊の内住、新しいいのち、罪と戦う力が与えられている。

神が下さる新しいいのちによる歩みをみことばから教えられ励ましを受けたい！

1. 主が私たちの罪のために十字架で死なれ、復活され、聖霊がこの世に来られ、私たちの心に働きかけ、私たちの罪を示し、主を信じる信仰と新しいいのちを与えて下さる。「聖霊によるのでなければ、だれも『イエスは主です』と言うことはできません」Ⅰコリント12：3。「人は、水（聖霊によるきよめ）と御霊によって（新しく）生まれなければ、神の国に入ることはできません」ヨハネ3：5。
2. 汚れた心、生活から新しいいのちを与え聖い心、生活に変え続けて下さる。「私たちはみな…主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたち（聖と愛の性質）に姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです」Ⅱコリント3：18。
3. 盗みや貪欲な人生から、神がすべてを与えておられる恵みを感謝し、愛と識別力をもって神に献げ人々に喜んで与える新しい人生に神は変え続けて下さる。「主イエス御自身が、『受けるよりも与えるほうが幸いである。』と言われた」使徒20：35。※主が変えて下さる証し。
4. 殺人=人を憎み心の中で殺す人生から、主が罪人のかしらである自分を赦されたことを心から感謝し、人を赦す人生に神は変えて下さる。「互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです」エペソ4：32。神の赦しがなければ既に滅んでいる。
5. 不正を行う人生から、神の前に正しいことを選ぶ人生へ。神が与えて下さる愛は「不正を喜ばずに、真理を喜びます」Ⅰコリント13：6。世の終わりの主の再臨の時、「私たちはそれぞれ自分について、神に申し開きをすることになります」ローマ14：12。
6. 不平、不満、つぶやきの人生から感謝を忘れない新しい人生へ。「主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな」詩篇103：2。「感謝の心を持つ人になりなさい」コロサイ3：15。恵みを数える。
7. 罪、悪をごまかす人生から、神と人に誠実に生きる新しい人生へ神は変えて下さる。  
「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます」Ⅰヨハネ1：9。
8. 弱さが恵みへ「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」Ⅱコリント12：9。

祈り：主とつながり、新しい歩みが与えられる恵みを感謝します。